

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 1290800356 | | |
| 法人名 | 株式会社 愛総合福祉 | | |
| 事業所名 | 愛・グループホーム幸 | | |
| 所在地 | 千葉県市川市幸2丁目3-23 | | |
| 自己評価作成日 | | 評価結果市町村受理日 | 平成30年4月27日 |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人ヒューマン・ネットワーク | | |
| 所在地 | 千葉県船橋市丸山2-10-15 | | |
| 訪問調査日 | 平成30年3月6日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム内に閉じこもりにならないよう、外出の機会を多く設けています。毎日の散歩を習慣にしています。桜並木の遊歩道や土手など、散歩に適した環境が整っており、地域の方々と挨拶を交わしています。入居者の日用品や趣味で使用する物品、嗜好品などは本人と一緒に買い物に出かけています。歩いて10分くらい先にあるフォレスト行徳や妙典駅前のイオンなど、ご自身で買い物を楽しめるよう支援しています。毎週火曜日をレクリエーションの日と決め、外出、調理レク、工作レクを行っています。外出は東京江戸博物館、浅草、サッポロビール工場など、入居者の希望を取り入れながら楽しんでいただいています。建物裏に小さいですが畑があり、入居者と共に水遣りや草むしりを行いながら育てました。サツマイモの出来がとてよく、芋ご飯、大学芋、スイートポテトなどを皆さんで作り楽しみました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)近くの遊歩道や公園、入江の土手など恵まれた立地を活用した毎日の散歩や駅前のショッピングセンターなどへの買い物など社会との繋がりを大切にしホームに閉じ籠もりにならない支援に取り組んでいる。2)調理レク・工作レクや演芸レク等アクティビティーに力を入れ、担当を決め職員の得意分野を發揮できるようにするとともに入居者同士のコミュニケーション作りに繋げている。3)入居者の行きたい所や食べたいものの希望を取り入れ、浅草やビール工場など毎月外出レクを実行している。4)裏庭の畑で野菜作りも楽しんでいる。5)外部評価の自己評価を職員全員で取り組んでいる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 |
|----|--|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 入居者の喜怒哀楽を大事にしたいと考え、それを踏まえた事業所理念を開所前にスタッフで考案した。毎朝の送り時に唱和し、入居者とともに喜びを感じ共に生活していることを実感できるよう努めている。 | 法人の経営理念を基に開所時に職員で考え、「時代(未来)に希う'希い'は一つ、務めはみんな、哀しいことも分かち合い、楽しく明るく過ごします」との事業所理念を作った。家での日常生活を思い浮かべ入居者と共に生活していることを実感できるよう、職員が協調しながらチームケアを大切にして支援に取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の催し物には参加するようにしている。自治会の夏祭りや近隣の保育園の運動会などの見学に伺った。当事業所の夏祭りの際は備品を自治会から貸していただいた。 | 自治会の夏祭りや保育園の運動会等を見学に行った。ホームの夏祭りには地域の方にも呼び掛け参加して頂いた。2ヶ月に一度「幸オレンジカフェ」を開催し地域の介護している家族等が話し合える場とし、また、認知症サポーター養成講座等の開催にも繋げている。遊歩道や公園の散歩時に地域の方達との交流が広がりつつある。 | 新年度には正式に自治会にも加入し、また、近隣の幼稚園や小中学校との交流にも取り組むことを計画しているとのことであり、更に地域との交流が広がっていくことが期待される。 |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 市川市認知症カフェ事業に登録し、昨年の8月から2ヶ月に一度認知症カフェ「幸オレンジカフェ」を開催している。また、認知症サポーター養成講座も当事業所にて開催している。 | | |
| 4 | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議を2ヶ月に一度開催している。入居者から外出したときの報告や、家族からの質問に応じたり、食材搬入業者との連携について報告をするなど、サービスの向上に活かしている。 | 市の地域福祉課職員、訪問診療医院・訪問マッサージ・食材会社など関係者や家族・本人が参加して、2ヶ月に一度定期的に開催している。入居者・スタッフ体制・行事や事故報告を議題として丁寧な運営報告をし、参加者と活発な意見交換が行われサービス向上に活かしていることが議事録から読み取れる。 | |
| 5 | (4) | 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 認知症カフェの取組に関し、地域支えあい課との連携をとっている。運営推進会議には福祉政策課が参加されるので、事業所の取組に関しては報告できている。また、トラブルや苦情が発生したときには、報告をし対応のアドバイスを頂いたりしている。 | 市の担当職員が毎回運営推進会議に参加しており、ホームの状況や取り組みなどをつぶさに見て頂け、的確な助言も頂ける協力関係が築けている。認知症カフェに関しては地域支えあい課と連携し市の広報なども活用して開催している。 | |
| 6 | (5) | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 開所前の研修にて高齢者虐待を行い、その中で身体拘束についても周知している。玄関の施錠に関しては玄関が公道に面しているため、電子ロック錠で管理しているが、建物内は危険の及ばない限り行動の制限はしないようにしている。 | 高齢者虐待防止と身体拘束に関する研修を実施している。3大ロックの中でも特にスピーチロックについては小単位で事例研修を行い、また、高齢者ケアのタブー集などで意識を高め、相手の立場に立った声掛けを徹底するように取り組んでいる。 | |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待研修のほかにも認知症ケアや接遇の研修等で虐待について学ぶ機会を設け、介護員自身が自分の行動を振り返ることが多くなるようにしている。また、介護員同士で注意喚起している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 入居時に成年後見制度を利用し、成年後見人がついた入居者が2名おり、連携を取って個人の支援にあたっている。 また、入居相談時に家庭環境等に不安を抱えている場合には成年後見制度の提案をしている。 | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書、重要事項説明書等は契約時に読み上げ、わかりにくい表現の箇所は事例を挙げ噛み砕いて説明をしている。 | | |
| 10 | (6) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族が来所時には管理者、ケアマネがお話しする時間を作り、要望や意見を伺うよう努めている。苦情受付に関しては、事業所内部だけではなく、重要事項説明書に市川市福祉政策課、千葉県国民健康保険団体連合会の連絡先を表記し、合わせて活用いただくよう契約時に説明している。 | 「愛グループホーム幸通信」に外出や普段の様子などの写真入りで、コメントを入れて毎月家族に送付している。また、運営推進会議議事録も送付し、ホームの取組み等についてもお知らせし、家族からも好評を得ると共に、面会時などに意見や要望なども具体的に言って貰い易くしている。 | |
| 11 | (7) | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者が事業所内にいるときには、介護員からの意見、要望を随時聞き、運営フローの変更など反映をさせている。また、社内のお悩みホットラインを掲示し、介護員の精神のフォローに活用できるようにしている。 | 管理者は随時職員の意見や要望を聞き、休憩時間の取り方やシフトによる業務等運営フローに反映させている。アクティビティーに力をい入れ、担当を決め職員の得意分野を發揮できるようにしている。職員のキャリアアップに向けた資格取得に関しては研修費用の法人負担や勤務シフト調整などに配慮するなど、職員の育成に取り組んでいる。現在、認知症介護実践者研修受講済みの職員が5名いる。事年度は個別研修計画兼受講記録を作成し職員の個別育成に取り組むことも計画している。 | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 社員のキャリアアップに向けた資格所得率向上を目指している。千葉県認知症実践者研修など正社員、パート社員の垣根を作らずに受講を勧めている。研修時受講の際は勤務シフトの調整や費用の貸付、負担をしている。 | | |
| 13 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 資格支援制度を設けている。外部の研修費用は会社にて負担をし、積極的な受講を進めている。また、新卒の新社員に関しては、本社にて別途研修を行っている。 | | |
| 14 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者との交流は実現できていない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービス開始前にご家族、関係機関等より本人の状況を伺い、本人と会うように心がけている。入居後もその時、その場面で本人の心境の変化を捉えるため、なるべく声かけを行い本人の言葉に耳を傾け、その想いを介護員で共有するように努めている。 | | |
| 16 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ホームの見学、入居申込時に現状で困っていること、今後の不安などを伺い、受容した上でホームで生活することによってどのように変化をしていくか等、今までの事例を用いてお話しさせていただき、心身の負担軽減になるよう心掛けている。 | | |
| 17 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人の今までの生活状況を家族から伺い、その中から快適な生活のために必要な支援を考え、提案をしている。訪問歯科、訪問マッサージ、福祉用具などをサービスに取り込んでいる。 | | |
| 18 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 食事作り、片付け、洗濯物干し、畑の世話、掃除など入居者と共に行うように努めている。また、入居者同士の助け合いもあり、介護員がむやみに間に入らないよう心がけ、共に生活する仲間として関係が築けるよう努めている。 | | |
| 19 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人が入居前に利用していた医療サービスなど継続を希望される時には、ご家族に対応していただき、本人への支援が途切れないようにしていただいている。 | | |
| 20 | (8) | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている | 本人が生まれ育った場所に行きたいと要望あったので、事業所での外出先として計画を立て実行したり、自宅近所の友人と日帰り旅行に出かけたりと、関係が途切れないう支援している。 | 近所の友人や教え子だった人が訪ねて来る。浅草や柴又帝釈天など生まれ育った所や馴染みの場所へ外出レクでお連れする。抹茶を楽しむ会や写真撮影、お墓参り、外食に家族と出かける。近所の友人と日帰り旅行をするなど、馴染みの関係を継続できる支援に努めている。 | |
| 21 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | テーブル席、ソファ、テレビの位置など、利用者同士が不快にならぬよう配慮している。自立度の高い利用者が介助を必要とされる利用者のお世話をしてくださる際は、感謝の気持ちを伝えている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ご逝去された利用者のご家族が荷物を引き取りに来られた際に、ご家族の近況を伺い、何か困ったことがあったらご相談くださいとお伝えしたサービス終了後も相談等があれば、対応していく。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | コミュニケーションが出来る入居者は希望や意向を伝えられるものの、遠慮や自制心から本心をお話にならないときがあるので、表情や声から汲み取り、本心を引き出す様言葉を選んで会話するよう心がけている。コミュニケーションが困難な方は、表情をみながら問いかけの内容を簡単に答えられるよう工夫して意向を把握するように努めている。 | 入居前に利用していた事業所のケアマネジャーからの情報や自宅での生活の様子や性格、生活歴、好みなどを家族から収集している。入居後には入浴時などで1対1になった際などを利用して本当の気持ちを聞き出すように工夫している。声かけした際の利用者の言葉や様子、表情をできるかぎりそのままの表現で介護記録に記入するように心がけている。 | ケアプランの見直しやモニタリングにつながる介護記録への記入内容の工夫が望まれる。 |
| 24 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居の相談時や契約時にご家族から今までの生活歴等を伺い、入居後に普通の会話の中で本人にお話を振って把握するように努めている。大きなズレがあったときにはご家族に確認するなどしている。 | | |
| 25 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 朝の申し送り、短期目標更新時のカンファレンスで入居者の健康状態や日常生活の様子を共有している。 | | |
| 26 | (10) | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 現行の介護計画書を入居者それぞれの介護記録の最前ページに掲示し、介護員が状況を記入するようにしている。家族や関係者にはケアマネが連絡を取り、希望や要望を伺い介護計画を作成している。 | 介護記録のコメントや職員からの意見を取り入れ短期目標毎にケアマネジャーが毎月モニタリングを実施している。外出支援や日中活動を増やしてほしいなどの面会時の家族からの要望をケアプランに反映させている。介護記録にケアプランを添付し、職員がケアプランを意識して支援できるように工夫している。ケアカンファレンスでは重点項目に絞って、サービス内容や方法を職員間で検討しケアプランの見直しを行っている。 | モニタリング書式に工夫を加え、サービス内容の実施状況や達成度などの毎月のモニタリングへの職員の参画が望まれる。 |
| 27 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別の介護記録には入居者、介護員の言葉をそのまま記録するよう心がけている。気づきがあれば朝の申し送りで話し合い、実践し結果を踏まえて介護計画の見直しに役立てている。 | | |
| 28 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 普段の会話の中から発せられた入居者の願いや思いを可能な限り対応できるよう努めている。生まれ育った場所を懐かしんでいたので外出レクで対応したり、寝る前にちょっとでもウィスキーが飲めるといいなどの希望で、ご家族に確認し希望があったので提供している。 4/8 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域のボランティアの受け入れを行い、フラダンス、紙芝居、南京玉すだれ、手品などを楽しんでいただいた。 | | |
| 30 | (11) | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 当事業所で在宅医の協力機関を2箇所設け、入居時に選んでいただくようにしたり、入居前に利用されていた在宅医を継続している入居者もいる。訪問診療時には必ず立会い、普段の様子を伝えたり、心配なことを相談したりなど対応している。 | 2か所の在宅医による訪問診療を入居者、家族の希望により受診している。受診時には管理者、ケアマネジャーが同席し、ふらつきなどの症状の報告や眠剤、下剤の使用などについて相談し、適切な受診につなげている。医師からの指示事項や薬の変更などは介護記録に記載し職員間の情報共有を図っている。また、検査値の異常結果などは必要に応じて家族に連絡している。 | |
| 31 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護ステーションと24時間連絡が取れる体制が出来ており、心配なことなど連絡を取って相談している。週に2回健康管理に来所するので、紙面にて状況報告を行い、アドバイス等を受けている。 | | |
| 32 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入居者が入院したときには介護サマリーを作成し情報を提供している。また、入院期間中も家族、病院に連絡をいれ近況を聞いたり、お見舞いに伺ったりして退院に向けての調整を行った。 | | |
| 33 | (12) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化対応・終末ケア対応指針を契約時の重要事項説明書にて示している。開所してから現在まで対象の入居者がいないため、取組は行っていないが、日ごろから医療と連携をとり、その時が訪れたら円滑に対応できるように心がけている。 | 契約時に「重要事項説明書」や「重度化対応・終末期対応指針」により、事業所で対応できる範囲の方針を説明し入居者、家族の同意を得ている。法人内で看取り経験のある職員や訪問医、訪問看護師による看取り体制が整備されており、重度化した際は改めて対応について家族に説明している。新入職者へは事業所の終末期対応指針や看取りの考え方などのターミナル研修を実施して備えている。 | |
| 34 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 開所前の研修で普通救命講習を受講した。また、事故・トラブル研修でも緊急時の対応について研修を行っている。 | | |
| 35 | (13) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 開所前に消防計画について研修を行い、避難訓練を年2回実施した。介護員全てが経験しているわけではないので、来年度の避難訓練では参加者を考慮し、全員が訓練できるようにしていく。 | 消防立会いの訓練など年2回の日中火災想定防災訓練では、入居者の安全確保や避難誘導法を明確にし、職員の防災意識の向上を図っている。1階、2階の職員がそれぞれの役割分担のもとに、消火、通報や入居者と一緒の避難誘導訓練を行っている。訓練後には役割分担意識の不足など、訓練で見えてきた課題を報告書にまとめて対策を図っている。実践的な防災訓練外部研修への参加や夜間火災想定避難訓練が予定されている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者の感情表現を大切にし、その時々の様子に合わせて対応している。入居者同士のトラブルの際はそれぞれの方に介護員がつき、お互いにその場を離れ話を聞くなど配慮している。 | 入居者の目をみながら傾聴の姿勢をとり、感情の起伏や気持ちの動きを受け入れて入居者と接することを心がけている。また、ユマニチュードについての研修も実施している。お酒の好きな方や整容にこだわりのある入居者への対応や行きたい場所への外出など、入居者の希望を尊重した支援に力を入れている。また、リビングにはコーヒー、緑茶、ジュースなどの飲み物を用意し入居者が自分で選択できるようにしている。 | |
| 37 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 食事の後の過ごし方、水分補給時の飲み物の種類、散歩への声かけなど、介護員から入居者に問いかけ、選んでいただくようにしている。 | | |
| 38 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日一日をどのように過ごしたいかという希望に沿うことは出来ていないが、「外に出かけたい」「買い物をしたい」という思いには時間を作る工夫をしたり、「歩きたい」「トイレに行きたい」という思いには都度対応することを心がけている。 | | |
| 39 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 朝の起床時など、整容を支援している。女性には化粧される方がいるので、無くなったときには一緒に買いに出かけたりしている。また、家族が対応できない方には洋服を買いに行ったりしている。 | | |
| 40 | (15) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 調理が出来る方には日ごろから手を貸していただいている。提供の際には「今日はです。」など声をかけている。また、調理レクや外食の際は、日ごろの会話の中で出てきたご好みの料理を食べられるよう支援している。 | 入居者が職員と一緒に近くのスーパーへ食材の買い物に行き、チャーハンや餃子、お好み焼きなどの料理を手伝う調理レクを毎月行っている。食事を楽しむと同時に入居者同士のコミュニケーションを図っている。ホテルでの和食ランチビュッフェや懐かしい柴又でのうなぎ料理などの外食、レストランでの女性同士の食事会も楽しんでいる。スプーンや食器の自助具使用により、出来る限り自分で口に入れて食べてもらうことに力を入れて支援している。 | |
| 41 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養バランスに関しては食材搬入業者にメニュー式を依頼しており、管理栄養士による献立となっている。水分量は一日1000ccを目安に確保できるよう支援している。 | | |
| 42 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後の口腔ケアは都度行っている。必要時は訪問歯科に依頼し、無料健診を行ってもらい、口腔ケアに関するアドバイスをもらっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 半数の方がリハパンを使用しているが、皆さんがトイレで排泄をしている。声かけが必要な方は3名で定時の誘導と、行動から判断し誘導するときもある。 | 食事前の定時誘導や表情、様子の把握による声かけにより、ほとんどの入居者がトイレでの排泄ができており、失禁回数の減少につなげている。広いスペースの車いす対応を含めて3カ所のトイレには、可動式の手すりなどが効率よく設置され安心して安全に排泄できるように配慮している。便の性状や量の観察により、水分量の調節や下剤投与のタイミングなどを参考にして適切な排便につなげている。 | |
| 44 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 個々の排便のパターンを理解し、定期的な排便が見られないときは、起掛けにお水や牛乳を提供したり、散歩で歩いてもらったり工夫している。 | | |
| 45 | (17) | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴は午前中と15時～17時の2回設けており、入居者のタイミングを優先している。湯は一人ずつ落としており、常に清潔な湯に入ってもらっている。昨年の冬至にはゆず湯を用意し楽しんでいただいた。 | 入居者の希望にそって午前中と夕方の時間帯に最低週2回入浴できるようにしている。浴室には2方向介助可能な自立支援型浴槽やスムーズに浴槽に移乗できるシャワーキャリーが設置され、安全に安心して入浴できるようになっている。入浴拒否の入居者には毎日声かけをして、入浴の約束を取り付けるなどの工夫により対処している。入居者の好みに合わせての入浴剤の使用や冬至のゆず湯で季節感を味わうなどの入浴支援を行っている。 | |
| 46 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 午睡の時間を設けている方もいる。居室への移動は自由となっており、自らお部屋で休まれる方もいるが、夜に眠れなくならないよう、適宜声かけをしている。 | | |
| 47 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬情を個々の介護記録の表紙として使用し、閲覧できるようにしている。嚥下の機能が低下している入居者には服薬ゼリーを使い安全に服薬できるよう支援している。 | | |
| 48 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 必ず入居者全員が一日に数回は笑顔を見せてくれるよう、声かけやかかわりを持っている。茶道をされていた方にその機会を設けたり、事業所の買い物に同行していただいたりしている。 | | |
| 49 | (18) | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 毎日、近所の土手、遊歩道を散歩している。外出レクの行き先など入居者の希望をかなえたことがある。事業所で対応できないような外出の希望はご家族にお伝えして、実現できるよう支援している。 | 毎日、午前と午後に分かれて近所の桜並木の遊歩道や土手を20分程かけて散歩を楽しんでいる。途中で道端の花を採ったり馴染みの方から声をかけられることもある。また、毎日、近くのスーパーへの食材の買い物や町内の祭りに出かけ地域の住民との交流を図っている。亀戸天神、柴又帝釈天など懐かしい場所への外出やビール工場、深川資料館見学など入居者、家族の希望を取り入れた外出行事を毎月行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご家族と相談の上、ご自身で小額の金銭を管理している方がいる。買い物をしたときには「今日、何を買ったの?」と問い、思い出してもらってお小遣帳で管理できるよう支援している。介護員は介護記録に購入品と金額を記録している。 | | |
| 51 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 自ら電話をしたいと話される方はいないが、家族や親戚、友人から電話があったときには取り次いでいる。 | | |
| 52 | (19) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間は清潔を心がけている。フロアは季節に応じ、掲示物を作成し楽しんでいただくよう工夫している。 | 広いリビングの周りに居室が配置され、入居者が疎外感を感じることなく落ち着いて過ごせる空間となっている。入居者と職員が制作した梅祭りや雛祭りの切り絵が飾られ季節感を感じさせる。急な立ち上がりやコミュニケーションをとることが難しい入居者などを考慮し、混乱せずに過ごせるように座席の配置にも配慮している。敷地内の畑にはプチトマトやサツマイモなどが栽培され、庭のベンチ、テーブルで入居者同士が会話を楽しんでいる。 | |
| 53 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 縦長のフロアになっており、テーブル席を2箇所、ソファ席を1箇所の3ブロックに自然と分かれている。自分の場所を固定され、コミュニケーションを楽しまれる方もいれば、そのときの気分でソファにて転寝をされたりしており、活用できている。 | | |
| 54 | (20) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室の家具はご家族にお願いをしている。どちらかと言うと間取りにあわせて購入されている方が多い。散歩で摘んできた花を飾ったり、家族写真を飾るなどして居心地の良さを工夫している。 | 居室の掃除を早番の職員と一緒に入居者が掃除機をかけて手伝っている。週1回のリネン交換の日にはほこりや手すりの掃除など細かいところを重点的に掃除し、清潔な居室づくりに力を入れている。自宅で使っていたテーブル、整理ダンスやテレビ、褥瘡対策のエアマットなどが家族の協力で自由に持ち込まれている。職員は加湿器の給水や衣替え時の衣服の整理、転倒防止のための家具の移動など、安全で過ごしやすい居室づくりを支援している。 | |
| 55 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 共有の空間には手摺を配置し、立ち上がりや歩行時の支えとして活用してもらっている。2Fへの移動はエレベーターもあるが、可能な方には階段を同行にて使用してもらい、出きる事を安全に維持できるよう支援している。 | | |